



秋が深まってきました。朝晩の冷え込みもあります。体調を崩さないように、衣服の調節をすることを教えています。うちでもよろしくをお願いします。

自分達で行く修学旅行

新幹線を降りても集まりません！先生は“ずんずん”行きます!!

9月29日・30日に、6年生が修学旅行で函館に行ってきました。路面電車を使っての班別の見学も行い、さらには、昼ご飯も「店外にテイクアウトして公園などで食べる」というコロナ対策を講じて自分達で現地調達することも行いました。駅前で解散し、16:30にホテルに集合するというように一日目はほぼ自分達で行動しました。行く前に、小菅先生は、「**新幹線を降りても種小はいちいち集まったりしません。他のお客さんの邪魔になりますし、時間ももったいないです。先生は、ずんずん行きますから、がんばって着いてきなさい。**」お話されました。

お話のとおり、新函館北斗駅で新幹線を降りた子ども達は、新幹線ホームで集合して点呼をとっている他の学校の子も達を追い越して一気にホームを駆け上がり函館行きの列車に乗り換えたのでした。「やった、自分達は素早く動いて時間をもうけた!」とばかりに“にやり顔”で見合う子ども達でした。

種市小学校では、「自分達で行く修学旅行」が続いています。今年も旅行会社の添乗員さんとの打ち合わせで、担任の先生からは「旗をもって誘導することはいりませんし、添乗員さんからもあえてあまり指示を出さないようにお願いします。」とお願いしていました。「**私たちは、言ってみれば「何もしない修学旅行」をめざしているのです。**」とお願いしています。

こうして、子ども達は、多少の失敗もしながら、「自分達で行く修学旅行」を行ったのでした。ワイワイと大騒ぎしながらの旅も楽しいですが、このように『自分達で』とか『テキパキ動いて時間をつくとたくさん見れる』などという“楽しみ方”にも気づいたのではないかと思います。



八戸駅の改札を抜けたあと、小菅先生から「ホームがたくさんあります。ここから、自分達で、ホームを間違えないで自分達が乗る列車の乗り場に行くことができますか。」の声。「東京行き」と「函館行き」の2つ階段のどちらに行こうか迷う班、真っ先に電光掲示板を見に行って何番線かを確かめる班とさまざま。それでも、先生方が降りてみると、全部の班がそろって、はやぶさ95号2号車が到着するところで待っているのです。

←函館駅で解散して班別見学に出発。先生方も先周りにチェックポイントに向かいます。



←時刻表を頼りに電車を待ちます。上り・下りを間違えては大変。

テキパキ動いて時間が余った班は、その場でもう1つの見学先を決めてたどり着きました。→



あいさつ運動はじまる

～あいさつを広めるバッジ～

児童会のあいさつの取り組みが始まりました。今回は、よいあいさつの人に手作りバッジが配られています。ただのご褒美ではなく、よいあいさつの手本となって広める役目が期待されています。めあては「明るく、先に」です。「2学期に入って、あいさつの声が少なくなった」「遠くからでも聞こえたあいさつが少なくなった」子ども達でそんな反省をしての取り組みです。『このままでは、よくない』『自分達で自分達の生活を改善していこう』という気持ちがかがえます。子ども達の取り組みを応援していきます。



執行部で手づくりされたバッジは名前を書いてつけてもらいます。



「てめー死ね、この野郎！ぶっ殺すぞ！」

あいさつ運動をがんばる子ども達がいる一方で、子ども達のことば使いや突然の大声・奇声も気になっています。おうちではいかがでしょう。突然奇声をあげたり、「てめー、死ね、この野郎！ぶっ殺すぞ！」のような言葉は飛んでいないでしょうか。

いやな言葉使いは、「ゲームの影響」、「ネット番組の影響」などと理由はあるでしょうが、いずれ「いやなことばを使わせない」ことを徹底しなければなりません。ゲームやネットが問題でも、それをそのままにしておいてはよくはなりません。だめなら、やめさせるくらいの大人の強い気持ちが必要だと考えます。家も学校も、一斉に徹底することでなくしていきたいです。

バッジをつけて、執行部がやってくれている取り組みをみんなの手で広めたいです。

今年の学習発表会は

おうちの方を3人に

先日、学習発表会のご案内の文書を子ども達に持たせました。今年の学習発表会は、

- ・ 昨年のように学年のごとの発表にします。
- ・ 学年ごとに入れ替わって見ていただきます。
- ・ 見る方は、**各家庭3人**まで増やすことにしました。

※席の間隔は多少狭くなりますが、「お話をしない」などのコロナ対策のご協力をいただくことで、少しでも多くの方に見ていただけたらと考えました。

- ・ 全校合唱は、とても残念ですが、まだむずかしいです。

たくさんの方に見ていただきたいという気持ちでいっぱいです。また、どの学年の発表も見ていただきたいです。加えて、子ども達にも、本番も全部見せて予行とは一回り違う互いの出来栄を見合うことも教育的に大きな価値があると考えています。そんな思いをもちながら、まだ、すっかりコロナの心配がなくなったわけではないので、引き続き規模を小さくして行わざるを得ません。何とぞご理解をお願いいたします。

万が一、発表ができなくなかった学年があった場合には、例年の計画のように、その学年だけ後日に延期することにして、できる学年の発表を行います。